



市史へんさん

第288号

令和5年3月1日
小松市史編纂担当
へんさんだより

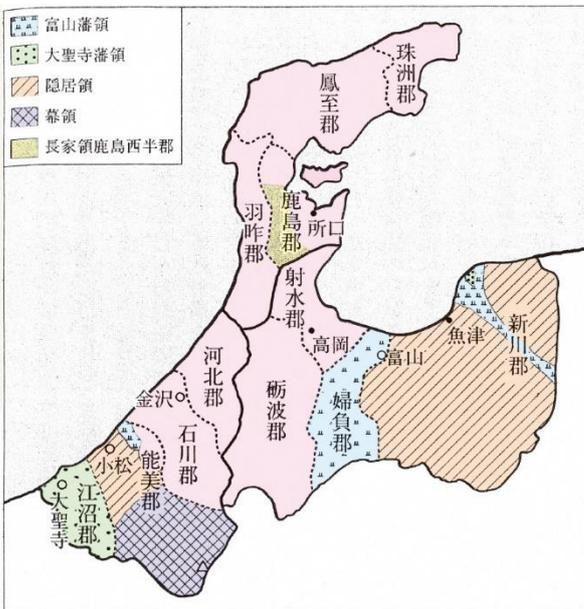
陽が長くなりました。少しずつ春の気配を感じる今日この頃ですが、時折、雪混じりの日もあったりと、正に三寒四温。寒い日と暖かい日が繰り返しています。この寒暖の差が体調を崩しやすいのでくれぐれもお気を付けください。今年は花粉もすでに散乱していますので、花粉対策も忘れずに心掛けましょう。

さて、先月に、『通史編I』の発刊にちなみ、その中で取り上げた、**改作法**にまつわる**利常の隠居政治**について市史講座を開催いたしました。これまで改作法といえば、村御印を例に、当時の税の内容や税率について詳細に解説してきました。今回の講座では視点を変え、利常はこの改作法、**村御印**を利用して、どのような政治を試みたかったのか、その背景を探りました。聴講のできなかつた方々のために、そのダイジェストをお届けします。

第99回 市史講座

「小松で改作法断行！～利常の隠居政治～」

講師：木越 隆三 氏（石川県近世史料編さん室長）



利常は、幼少期に人質として小松に居たことから、隠居地をこの地と決め、三藩分治を挙げて、光高 80 万石、隠居領 22 万石、二男利次 11 万石、三男利治 7 万石とした。この時、串を、大聖寺藩領にする代わりに、那谷を隠居領に入れている。（左図参照）

「改作」は、当時「御開作」と言っている。「開作」とは農業のことで「御開作」とは藩主が農業を奨励したことを意味する。利常は困窮する村を救済し、農業政策邁進のため御開作地に**村御印**を発給し、新税制(増税)を実施した。（下表参照）

村御印は、謂わば税金請求書で、御印(藩主の印)が押された文書に記された税額以上の支払いをしなくてもよい根拠になるため、村では大切に保管され、現在でも多くの町に残されている。利常が出した村御印は**明暦2年**のもの。綱紀の時に回収され、村高、税率を上げて**寛文10年**に全村に新たに出している。これが今に残る。

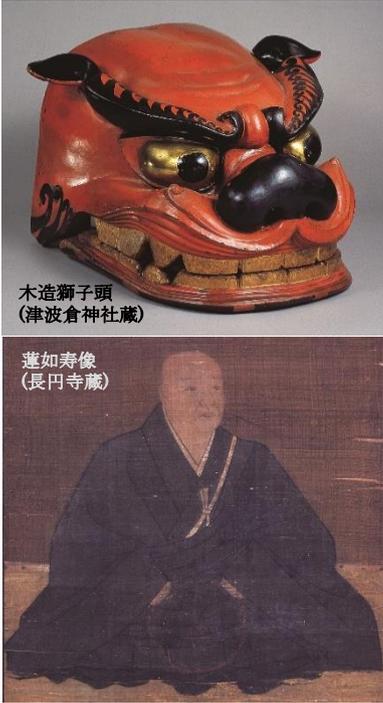
村御印から税の内容、税率がわかるが、小松城下の様相を探ることができる。寛文の村御印は、小松の町にも出している。地方(ヅカ)と呼ばれる地域で、かなり税率が高かった。この地には武家屋敷があり、利常逝去後、在住藩士が金沢に移住したため、その屋敷跡は農地転換され、村高が増加する。万治2・3年発給の村御印には、**屋敷跡上高**として石高が上げられる。この石高の記載のある町や村には武家屋敷があった証しとなり、利常在城時の小松在住藩士の住所と屋敷面積が裏付けられる。町以外で屋敷跡上高の記載があるのは、今江・三谷・園・小寺・大領中・上小松・上牧・下牧各村で、城下から遠く離れたところにも、藩士が住んでいたことがわかる。浅井暁の戦いで敗れたことから城外警備のため戦略的に、北は上牧・下牧、南は三谷・大領中・今江に藩士を配置した。

村御印を出した背景には、幼少期にいた小松で真宗門徒が南無阿弥陀仏を唱えながら寺に献金する姿を見ていたであろう。自らの意志で、寺に金を差し出す献金と同じように、増税も無理矢理でなく、百姓が納得して納税できる方法がないかと考えたのが、「開作」であった。

年次	慶安4年 (1651)	承応元年 (1652)	承応2年 (1653)	承応3年 (1654)	明暦元年 (1655)	明暦2年 (1656)	明暦3年 (1657)
能美郡		10月←		*		**→10月	
石川郡	←			*	*	*	
河北郡	←				*	*	
砺波郡	←					*	
射水郡	2月←					*	
新川郡(隠居領)	←					*	→
羽咋郡			2月←			*	
鹿島東半郡			2月←	*		*	
鳳至郡		10月←		*		*	
珠洲郡		10月←		*		*	



『新修 小松市史 通史編 I (中世)』 目次紹介



＊『通史編 I (中世)』目次構成

第1章 京の王権と武家政権	第3項 南・北白江荘
第1節 加賀国衙と白山寺社勢力	第4項 野代荘
第1項 国守・目代と白山衆徒	第2節 発掘された荘園村落と町場
第2項 知行国主と加賀の国務	第3節 遊行と禅信仰の伝播と展開
第2節 武士団の形成と地頭御家人	第1項 遊行上人の活動と時衆
第1項 源平の合戦と南加賀	第2項 安宅聖興寺の動向
第2項 鎌倉幕府の成立と南加賀	第3項 野田長福寺と尼の活動
第3節 南北朝内乱と守護	第3章 戦国乱世と一揆の時代
第1項 建武政権と室町幕府の成立	第1節 本願寺と加賀能美郡門徒
第2項 加賀南半国守護の時代	第1項 一向一揆成立と波佐谷松岡寺
第2章 荘園社会と宗教世界	第2項 大坂本願寺と能美郡門徒
第1節 能美低地の荘園分布と諸相	第2節 江沼郡境周辺の在地動向
第1項 能美荘	第1項 戦国期の小松と朝倉氏の争闘
第2項 郡家荘(板津荘)上郷	第2項 織田信長の北進と南加賀

『新修 小松市史 通史編 I』
 仕様：B5版 上製本 布装丁 貼ケース入り 本文 943頁
 価格：5,400円(税込)(令和5年12月まで特別価格)
 販売所：市史編纂担当事務局・うつのみや城南店・明文堂書店

第100・101・102回 市史講座

古文書講座

講師：袖吉 正樹氏
 (金沢市立玉川図書館・新修小松市史専門委員)

3/ 5(日)…古文書を読んでみよう
 3/12(日)…村方文書を読む
 3/19(日)…町方文書を読む

時間：午後2時～4時
 会場：小松市公会堂4階 大会議室
 受講料：無料

<3月のカレンダー> 開室時間 10:00～17:00(火～金)/9:00～17:00(土)

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
2/26	2/27	2/28	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	4/1

* は市史編纂担当の事務局は閉室しています。

小松市史編纂担当 (小松市立図書館 2階)

- ・住所 〒923-0903 小松市丸の内公園町 19 芦城公園内
- ・TEL 0761(24)5315 ・FAX 0761(22)9763
- ・E-mail hensansitu@city.komatsu.lg.jp
- ・URL <https://www.city.komatsu.lg.jp/soshiki/toshokan/shishihensan/index.html>